

まつやま 洪水ハザードマップ

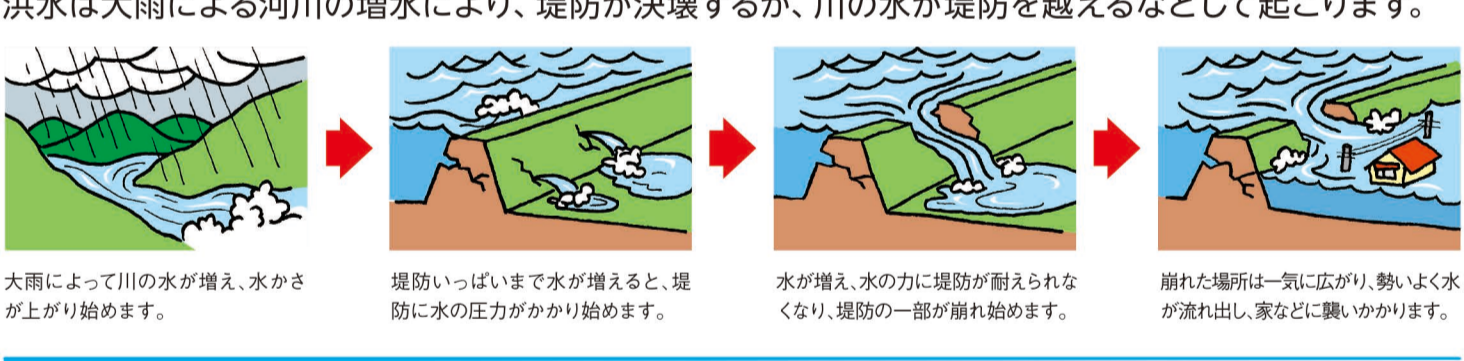
重信川版

意識と準備が命を守る!

松山市

洪水から身を守る

洪水発生メカニズム



都市型水害について知る

大規模な洪水以外にも、都市部は舗装された道路や宅地が多く、降った雨は地中に浸透しにくいので、川や水路、下水道に一気に集まります。そのため、次のような危険がありますので注意しましょう。

- 低地の冠水**
 - ① 低地や道路のアンダーパス*では冠水が起こり、車が立ち往生し水没する危険があるため、通らないでください。
 - ② 地下が浸水すると...
- 地下への冠水**
 - ① 水圧でドアが開かない
 - ② 一気に水が流れ込む
 - ③ 外の様子が分からず逃げ遅れるなど、命に関わる危険があるため、早めの避難が必要です。
- 中小河川の増水氾濫**
 - 都市部の中小河川は、急に増水し、流れが速くなり、氾濫するおそれがあります。
 - ① 逃げて避難しないうち、大雨の時は近づかないでください。
- 過去の浸水**
 - 過去に浸水があった所は、大雨の時、再び浸水するおそれがあります。事前に確認し、避難する際はこのような所は避けてください。
 - ② 過去の浸水(浸水実績)については、松山市のホームページで確認できます。松山市の浸水履歴

雨の強さと降り方、災害発生の目安

1時間雨量(mm)	10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上~
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受け方イメージ	傘が濡れる	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように濡れる	濡れながら走る	豪雨を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元が濡れる	傘をさしていても濡れる	濡れている人の半数くらいが雨に気づく		
屋内(木造住宅を想定)	雨の音で話し声がよく聞き取れない				
屋外の様子	地面一面に水たまりができる	道路が川のようになる	高速度走行時、車輪と路面の間に水膜が生じ、ブレーキがきかなくなる		
車の運転	この程度でも、長く降り続くと注意が必要。	側溝や下水道、小さな川があふれ、小規模の付け根れが始まる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、土砂災害警戒区域等では避難の準備が必要。都市部では下水道から雨水があふれる。	都市部では地下道や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が湧き出す。土砂災害が起きやすくなり、多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害が発生するおそれが高くなる。避難が必要。
災害発生状況					

わが家の防災メモ

ハザードマップを使ってわが家の防災メモを完成させましょう! 地図を確認して、該当するところにチェックを記入しましょう。

自宅の災害リスク

浸水深 浸水無し 0.5m未満 0.5~3.0m 3.0~5.0m 5.0~10.0m

家屋倒壊等氾濫想定区域 氾濫流の想定区域内 河岸浸食の想定区域内 想定区域外

浸水継続時間 12時間未満 12時間以上1日未満 1日以上3日未満 3日以上1週間未満

避難の方法

このハザードマップを参考にして、避難の方法を確認しましょう。

避難の方法 屋内待機 垂直避難(階に避難) 立ち退き避難

避難場所

自宅から避難場所までの経路や時間を確認しましょう。

避難場所 _____ 自宅から避難場所までの時間 _____

[メモ] 避難時の持ち出し品などについて、記入しておきましょう。

非常持ち出し品チェックリスト

下記はあくまでも一例です。各家庭の事情に合わせたものを用意しましょう。

貴重品 現金 印鑑 健康保険証・預金通帳 ※コピー可

水・食料 飲料水 携帯食・非常食 ※ビスケット・缶詰など

医療・衛生用品 服用している薬 救急医療品 歯ブラシ・口腔ケア用品 マスク 消毒液 液体せっけん 非常用トイレ 生理用品 入れ歯 眼鏡・コンタクト

避難用品 ヘルメット・防災ずきん 懐中電灯 スリッパ 軍手 ホイッスル

道具類 携帯電話・充電器 携帯ラジオ 電池 時計 ロープ

衣類 上着(防寒着)・下着・靴下 雨具(レインコート)

生活用品 ウエットティッシュ・ティッシュ タオル ゴミ袋・ポリ袋 レジャーシート

いざという時の連絡先

松山市内の市外局番は「089」です。

消防(火災・救急・救助) (市外局番ナシ) **119**

警察(事件・事故) (市外局番ナシ) **110**

松山市消防局 **926-9200**

松山市災害対策本部(設置時) **987-7000**

火災・救急病院の問い合わせ(テレホンサービス)

火災 925-6622 救急病院 925-6633

松山市 総合政策課 防災・危機管理課
〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目7-2
TEL.089-948-6793 FAX.089-934-1813
https://www.city.matsuyama.ehime.jp/

まつやま 重信川版 洪水ハザードマップ

松山市 総合政策課 防災・危機管理課
〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目7-2
TEL.089-948-6793 FAX.089-934-1813
https://www.city.matsuyama.ehime.jp/

防災気象情報の種類と内容を知る

災害発生の危険性を5段階でお知らせします

警戒レベル	市民の皆さんがとるべき行動	避難情報等	警戒レベル相当情報
警戒レベル5 最悪な状況 命を守る必要	災害が発生、切迫している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	緊急安全確保(松山市が発令)※	氾濫発生情報 大雨特別警報 など
警戒レベル4 危険な状況 全員避難	速やかに避難行動をとりましょう。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所への避難や自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示(松山市が発令)	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 など
警戒レベル3 危険な状況 高齢者等避難	ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児など、避難に困難のかけらある人とお子様は避難行動をとりましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難(松山市が発令)	氾濫警戒情報 大雨警報 など
警戒レベル2 危険な状況	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	大雨注意報 など(気象庁が発令)	
警戒レベル1 危険な状況	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報(気象庁が発令)	

※可能な範囲で発令されるものであり、必ずしも発令されるものではないことに注意してください。

気象庁からの注意報・警報

大雨・洪水注意報

大雨により災害が発生するおそれがあるときに発表されます。

大雨・洪水警報

大雨により重大な災害が発生するおそれがあるときに発表されます。

大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予測される場合に発表されます。すでに災害が発生している可能性が高く、大雨特別警報発表までに避難することが重要です。

危険水位について

重信川の水位(山出大橋下250m)

危険水位 5.10m
避難判断水位 4.60m

水位標のゼロ地点4.1m

石手川ダムの放流について

放流開始の通知 — 警報について —

- サイレン局からの警報
- サイレンの鳴らし方
- 電光表示装置

浸水の高さを確認

あなたのご自宅は浸水何m?

5.0~10.0mの浸水

- 2階の屋根以上が浸水
- 水流が強い場合には、木造住宅が倒壊・流出する危険がある

3.0~5.0mの浸水

- 2階の屋根まで浸水
- 水流が強い場合には、木造住宅が倒壊・流出する危険がある

0.5~3.0mの浸水

- 2階の床下まで浸水
- 1階部分が浸水
- 強い水流の中を歩くことは危険

0.5m未満の浸水

- 床下浸水
- 大人のひざ下程度
- 浸水の深さがひざ上になると、歩行は危険

家屋倒壊等氾濫想定区域

「浸水ナビ」で詳しい浸水リスクを確認しましょう

地点別浸水シミュレーション検索システム「浸水ナビ」で、どの河川が氾濫した場合に浸水するか、どの川の決壊後、どれぐらいの時間で氾濫した水が到達するか、どれぐらいの時間、浸水が継続するかなど、ポイントの詳細な浸水リスクを確認できます。

自分が住んでいる地域に、どのような被害が想定されているのか、事前に確認し、適切な避難行動につなげましょう。

詳しくは、ホームページ「浸水ナビ」

状況に応じた避難行動をとる

いつ避難するかを決める!

屋内待機 垂直避難 立ち退き避難

避難場所は、小中学校・公民館ではありません。安全な親戚・知人宅に避難することも考えましょう。

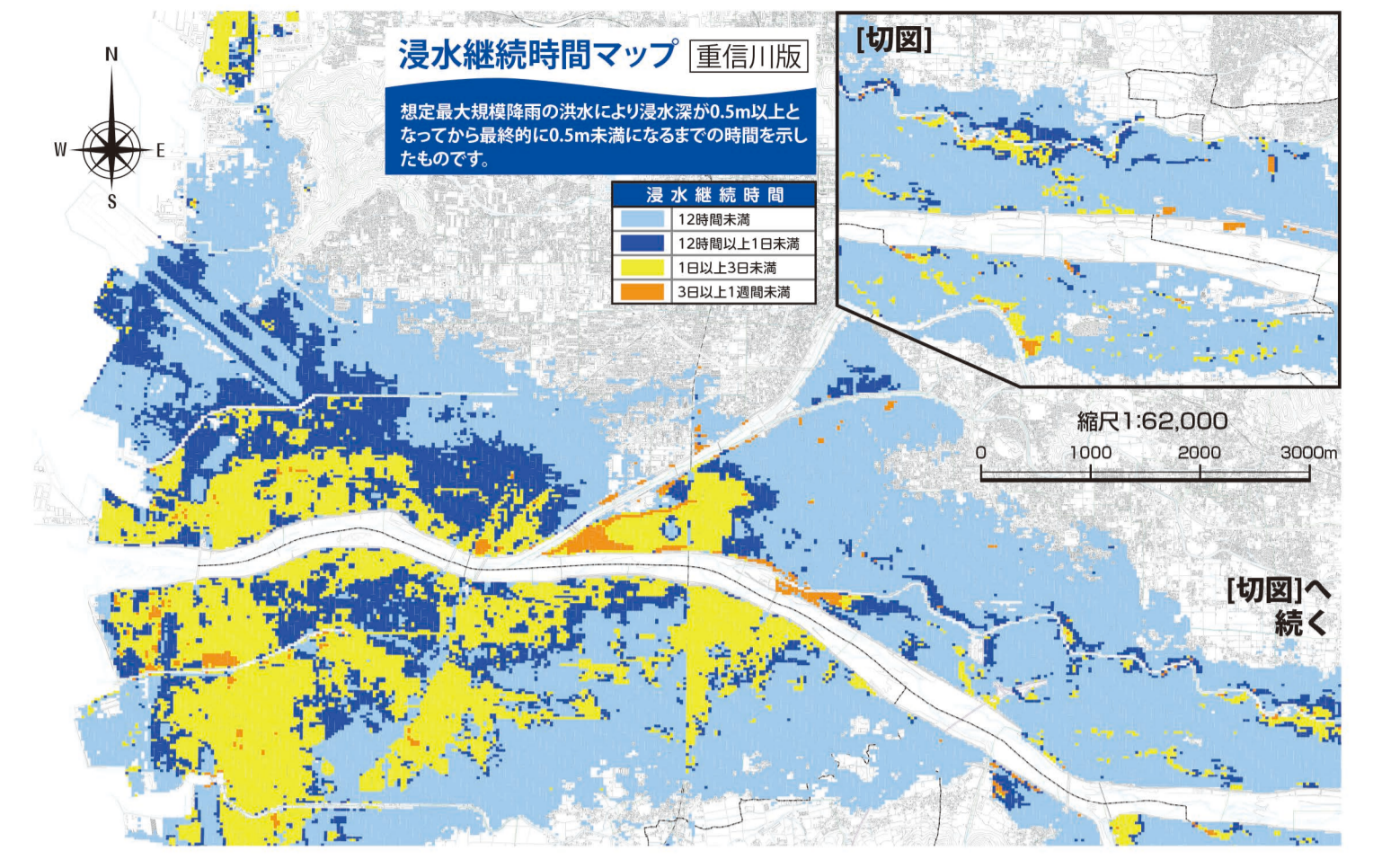
大雨・洪水時の避難のポイント

- ひざ上まで水につかると歩きにくくなります**
冠水している道路を渡るには危険です。歩ける水の深さは50cm程度が限界です。
- ロープにつなぐ**
子どもなどは大人とロープを体をつなぎましょう。
- 足元に注意**
水中の溝などに注意し、長い棒を杖代わりにして確認しましょう。道路はできるだけ真ん中を歩きましょう。
- 車は使わず、歩いて避難**
あらかじめ決めておいた、よく知っている避難コースをとりましょう。
- 子どもやお年寄りを安全に**
小さな子どもやお年寄りの不自由な歩きを妨げないように、お年寄りは背負います。ベビーカーを活用する方法もあります。
- 危険などには避ける**
狭い道、がけや川のそばは避けましょう。濡れた土は滑りやすいため、電線には近づかないようにしましょう。

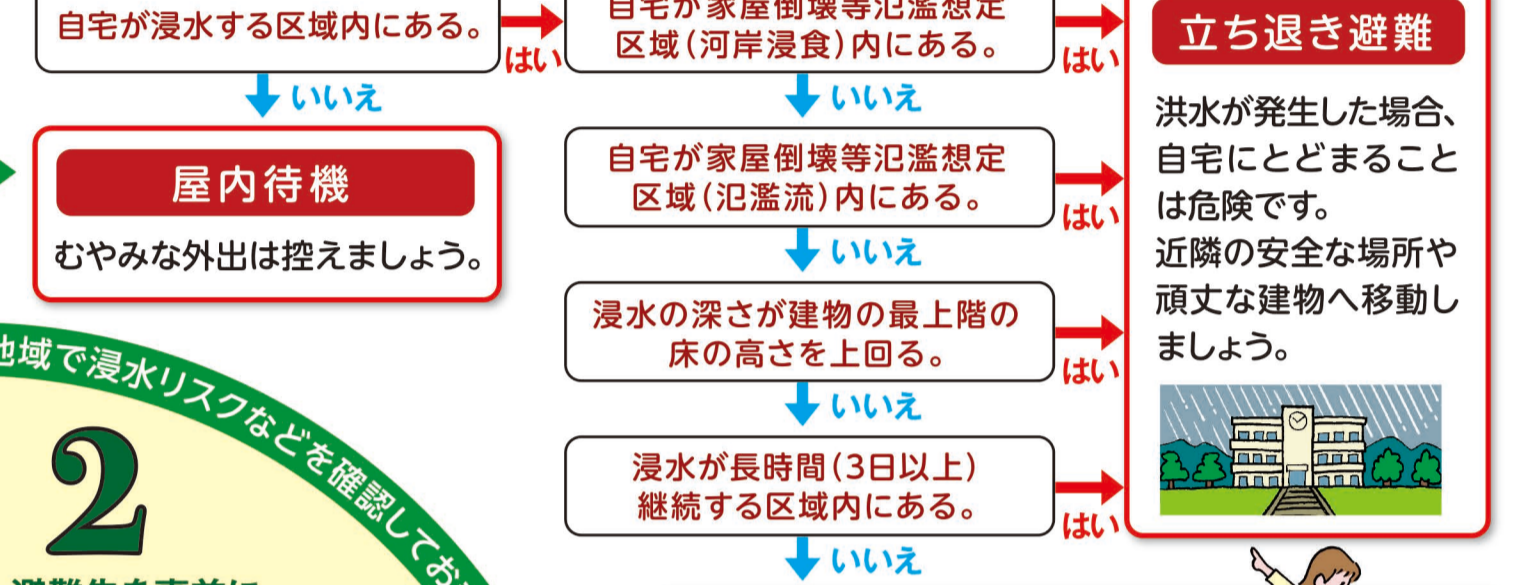
特に注意が必要なところ

- 地下空間**
地上の様子から分からないため、逃げ遅れる危険があります。地上が冠水すると一緒に水が流れ込んでいきます。
- アンダーパス(地下道)**
鉄道や道路の下をくぐる場所は路面が濡れやすいため、大雨の時は通行を避けましょう。
- 車(運転中)**
水深30cmを超えると、多くの車はエンジンが停止します。浸水などの危険を感じたら、安全な場所へ移動しましょう。
- 河原**
周りが急に暗くなったり、雷が聞こえたりきたら、急遽に増水するおそれがあるため、すぐに川から避難しましょう。

浸水の継続時間を確認



いざというときの避難行動を確認



状況に応じた避難行動をしよう

避難とは「難」を「避」けること

1 マップで浸水の深さを事前に確認しましょう

2 避難先を事前に決めておきましょう

3 情報を基に避難の判断をしましょう

4 早めに避難をしましょう

5 避難場所へ行く必要はありません。

6 状況に応じた避難行動をしよう

7 避難情報などの伝達、入手方法

8 広報車

9 テレビ・ラジオ

10 メール配信

11 スマホアプリ

12 SNS・ホームページ

避難情報などの伝達、入手方法

松山市では、様々な方法で避難情報などを発信しています。様々な情報の入手方法を知れば、いざという時も役立つ。日ごろから確認して、自らの命は自分で守りましょう。

1 防災行政無線

市内284カ所の屋上スピーカから災害気象情報を知らせてくれます。

2 広報車

市有車や消防車によるマイク放送をします。

3 テレビ・ラジオ

● 避難情報や避難所開設情報は、テレビのデータ放送でも確認できます。

● 手回式のラジオがあれば安心です。

● 愛媛CATVでは、「お知らせチャンネル121」で、市からの情報を自動で繰り返し読み上げます。

4 メール配信

● まつやま防災メール(事前登録が必要)

● 愛媛県防災メール(事前登録が必要)

5 スマホアプリ

● Yahoo!防災速報 ● ひめシェルター

6 SNS・ホームページ

● 松山市ホームページ

● 松山市公式LINE

● 松山市防災情報Facebook

● 松山市防災情報Twitter

川の水位情報

河川に設置されている常時水位計や危機管理型水位計で観測した最新の河川の水位情報が、パソコンやスマートフォンで確認できます。また、河川監視カメラの映像も確認できます。非常時の避難行動などに活用してください。

危険度分布の色が持つ意味と行動などの例

注意	警戒	危険	災害切迫
今後の降雨や河川の状況により、水位が上昇する可能性がある。	安全確保行動をとる準備を。河川氾濫などの危険性が高まる。浸水などの被害が発生するおそれがある。	河川氾濫などの危険性が高まる。浸水などの被害が発生するおそれがある。	重大な被害が発生している可能性がある。浸水などの被害が発生するおそれがある。

浸水キクル(大雨警報(浸水)の危険度分布)

洪水キクル(洪水警報の危険度分布)

浸水キクル(大雨警報(浸水)の危険度分布)と洪水キクル(洪水警報の危険度分布)の色が持つ意味と行動などの例

注意 警戒 危険 災害切迫